

平成 26 年度（第 1 回）あわら市スポーツ推進審議会会議録

平成 26 年 5 月 29 日（木）
午後 7 時 15 分～午後 8 時 20 分
あわら市役所 204 会議室

（会議日程）

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議題
 - （1）平成 25 年度社会体育事業報告について
 - （2）平成 26 年度社会体育事業計画について
 - （3）第 73 回国民体育大会の概要について
- 4 その他
- 5 閉会

（出席委員）

1. 吉田昭博（会長） 2. 田端俊治（副会長） 3. 細川博治 4. 北田延子
5. 林 清一郎 6. 池羽田雅子 7. 齊藤利秋 8. 小嶋範久

（委員以外の出席者）

教育部長、スポーツ課長、国体準備室長、スポーツ課長補佐、トリムパークかなづ
所長

【 開 会 】

教育部長 ～開会あいさつ～

【平成 25 年度社会体育事業報告について】

質問、意見なし

【平成 26 年度社会体育事業計画について】

委 員 劔岳グラウンドをグラウンドゴルフの専用グラウンドにしようと言っていたがどうなったのか。また、農業者トレーニングセンターの名称変更についてはどうなったのか。

事務局 劔岳グラウンドの整備については、利用状況と整備にかかる経費を出してみたが、実際の難しいということで、グラウンドは現状のとおり変わらない。農業者トレーニングセンターの名称変更については、農林サイドの補助金を使って建設した経緯もあり、水田農業経営課の指導グループからの回答によると、出来高設計書の事業の効果という中に、スポーツ活動を通して農業者の健康維持、促進を図るとともに、地域住民の連帯感、醸成を期するために、本施設を整備した。また、地域農村の発展と活力ある農村社会の形成に努めるとあることから、農業者を外すことは事業効果に影響を与えると国から指摘させそうなので、正式名称は農業者トレーニングセンターとして、愛称として何かつけるのはいいと思う。

会 長 かなり大規模な改修になるのか。

事務局 調査の結果、最小でも億近い金額にはなる。どこまでするかは、来年、設計をしていく段階で、競技団体、財政課と話をしながらになる。今の時点で数字を出すのはちょっと難しい。

委 員 柿原農村グラウンドのテニスコート、荒れて現在全然使っていない状態だが、今後どうするのか。

事務局 平成 22 年度から、利用者数がゼロになっている。確かに、今は草が伸びた状態で使っていない。何か利用できる種目があれば、条例等の改正を検討しながら考えていきたい。

委 員 巷の噂でサッカー場の話を聞くが、具体的に決まった話があるのか。

事務局 今は、具体的に何も決まっていない。新聞等で報道されたのは、県のフットボールセンターをあわら市で建設していただければということで、福井県サッカー協会の方から連絡があったが、その候補地についてはまだ決定していない。計画としては、今年度中に候補地を出したうえで検討していきたい。

【第 73 回国民体育大会の概要について】

委 員 ハード面は開催地の負担になるのか。

事務局 施設整備については割振りが示されている。もともととしてはいけないものは開催地で、国体用にどうしても必要なものは支援しますという形で、トレセンを例に上げると、屋根の防水工事は市で、日常行政が使用する分にはまだ使えるものを国体用にきれいにするというなら程度にもよるが、支援してもらえるレベルなので、国、県からの支援はトレセンについてはあまりない。

委 員 カヌーは、一時的なレンタルだが、そういった場合はどうなるのか。

事務局 仮設で作って、そのまま無くなるものについては全てではないが、カヌーで言えば、コースを作るとか、仮設で作る競技に関することは 10 分の 10。テント等は含まれない。

委 員 国体が終わっても、身障者スポーツでもカヌーがオリンピック種目になってき

ている。カヌーであわらからオリンピック選手を出したい。それも身障者スポーツで出る可能性が高い。国体から2年度を見据えて、これからのことを考えて施設整備をするとあわら市が負担しなければならないのか。

事務局 残すとなると、補助規定は変わってくる。

カヌーを地域のスポーツとして、施設をそのまま残してやっていくということになると出て2分の1。それもそう甘くはないだろうと、少なくなっていくのではないか。

委員 市がどう考えるか。カヌーは大きな希望のある種目であることは間違いない。オリンピック選手を出すには一番可能な種目である。

事務局 今のところ国体の身障者スポーツにカヌーはない。

委員 女性で、これからあわら市で練習して、カヌーを身障者スポーツとしてアピールしていきたいという人がいる。そういうこともあるので、施設整備も考えてもらいたい。難しいのは漁業権だと思うが、漁業権は出してもらえないのか。

事務局 漁業権は出してもらえない。

常設になると漁業権の話から詰めていくことになるが、常設ならもう時期を過ぎているのではないか、今から常設というのは遅いのではないか。

会長 大会を運営するにあたって、ボランティアとかカヌーはかなり必要になると思うが、そのあたりの確保は、今後どう考えていくのか。

事務局 カヌーは、競技団体が脆弱じゃないかという部分がある。他の競技は、完全に競技は競技の人、ボランティアはボランティアの人で半々、後は市役所職員で3分の1ずつ、しかし、カヌーは、競技団体とかなり市役所職員が重複しないと動かないだろうということを人事サイドに話している段階。バレーは、競技団体が審判、運営など競技を知らないとできない部分は全てバレー協会が、あわら市は事務的なバレーを知らなくてもできるところを、その下の部分の数でこなせる部分をボランティアで集める。カヌーは、特に水の競技で危険なところもあるので、スタッフも多くなると思われるが、現場も、人員予想で、県カヌー協会からの人数を中央、県の欄に書いてあるがまず集まらない。そこに市役所職員を、特にあわら市にはカヌーにたけた職員がいるのでそこに動かさなければならない。そうすると必然的に職員、ボランティアも多くなるというようなずれ方をしていかなければならないと思っている。

会長 カヌー競技は、大会が5日間開催になるので、岐阜の大会を視察に行ったら高校がとても協力していた。このあたりでは、高校は1つしかない。そこを全員出しても、岐阜大会には足りないくらいのボランティアの数だった。そういったところをこれから詰めていかなければならない。特にカヌーは人が要る。

事務局 一昨日の資料でも、競技団体が育成していく人員の計画が出ているが、他の競技団体は、育成して育って増えてきているが、カヌー競技は、全然数が不足して

いる状態で、何年か前から計画人員を横ずれしていつているのが現実。

会 長 準備室がやっとできたので、これからどういうふうに対応していくかが必要になってくるのではないか。即答は必要ない。

事務局 認識として危機感がないというか、わかっていないところがまだかなりある現状である。基本的な線引きを県に聞いても、それは競技団体で、市がすることはそれではないよとスパッと言う、そういう認識である。気運全体の盛り上がりもあるが、競技に対するプロフェッショナルを配置していくということも進めていかないと、特にカヌー競技はそう思う。

委 員 カヌーは、子どもを使わないとたぶんできない。審判は県の理事長が大丈夫だと言っているが、金津高校、三国高校、坂井高校の3つの高校の協力を仰がないとできないと思う。石川県はカヌーをやっている高校が3つあり、インターハイでは運営スタッフは生徒、その指導に先生が付く。選手は艇に触れないので、計測も持ち運びもスタッフがする。選手は乗る、降りる、競技が終わってから艇を運ぶだけなので、結構力のいる作業である。

事務局 予算側から言うと、県内で手当することになっている。スタッフを県内であてがうと言っている。もし、県外の人になると市が旅費等支払わなければならない。

高校生については、今バレーボールも話をされていて、かなり高校生頼ると言っているが、寺島先生が、自分が何とかすると言ってくれている。それが、カヌーとの大きな違いで、誰が学校にお願いに行くのかから不安になる。金津高校も順番を間違えればバレーボールに引っ張られてしまう。3つ競技があると、金津高校の生徒を取り合うことになるぐらいの認識を、先生も含めて早く持ってもらいたい。金津高校の校長先生については、準備委員会の中に入れていきたい。

会 長 準備委員会は11月に立ち上がるのか。

事務局 その予定でいる。

【そ の 他】

審議案件なし

【閉 会】

会 長 質問がないようですので、会議を閉会します。

午後8時35分閉会